

第1章 研究活動と研究成果

1. 研究活動の概要

本研究は大きく沖縄班(山崎、崎浜)とパレスチナ班(金城、飛奈)から構成され、沖縄県における米軍駐留とパレスチナにおけるイスラエルの侵攻という地政学的・軍事的緊張の構造を理解するとともに、それに抗う民族集団の文化的実践に関する実態調査を実施した。2年間の研究期間において、沖縄県およびパレスチナにおける調査を、各地域での関係機関との連携のもとで数次実施するとともに、比較研究の成果を総括し、連携機関に還元しことに勤めた。

平成27年度は、各班が相互に意見・情報を交換しつつ、それぞれのフィールドで「軍事的圧力に抗う文化的実践」の実態を明らかにすることを主眼とし、研究に着手した。その内容は以下のとおりである。

沖縄班は、沖縄市総務部総務課市史編集担当および沖縄国際大学南島文化研究所において、自治体史・字誌の編纂ならびに宜野湾市における普天間基地跡地利用計画の内容に関する調査を実施し、28年2月5日に同研究所に行政関係者を招き「沖縄文化のレジリエンス(復元力)ー地域史と景観復原の視点から」と題したミニシンポジウム(沖縄国際大学南島文化研究所第195回シマ研究会)を開催した。現在はその報告書を作成中である。パレスチナ班は担当者それぞれがヨルダン川西岸地区において地誌編纂と伝統的建造物修復事業の内容に関する調査を行なった。またハイファ大学地理学部のラーセム・ハマイス教授の協力の下、2016年8月に開かれる国際地理学連合北京会議において、本研究と直接かかわるセッション(A Reexamination of Militarization and “the Space of Occupation”: A Comparison Perspective)を設置する準備を進めた。

平成28年度は、前年度の研究を展開させるために、両研究班の連携として2016年8月に開催された国際地理学連合北京会議において上記セッションを設け、占領空間の実態を国際的に比較考察した。ここで山崎は上記普天間基地の跡地利用の意義を報告し、ハマイス教授はヨルダン川西岸地区のパレスチナ人集落の再建計画について報告した。とりわけハマイス教授による報告は文化的抵抗の一つの可能性を提示した。すなわち、イスラエルの非合法的な入植地建設によって生活空間を圧迫されるパレスチナ人にとって、この集落再建計画はイスラエルの都市計画に対抗する(カウンター)プランニングと意味づけられるのである。これも景観の修復が占領に対する一つの文化的抵抗を構成している例である。

12月には、大阪市立大学船場プラザにおいて写真展兼シンポジウム「コザ暴動プロジェクト in 大阪「都市と暴動」」を開催した。これは1970年に沖縄県旧コザ市で勃発した「コザ暴動」を題材とする写真展、「都市と暴動」をテーマとする講演、写真家によるギャラリートークから構成された。この企画は、地域の政治史的記憶が、写真展と写真家の語りを通して、地域アイデンティティを再構築する働きをもつ文化的実践と位置付けられる。本研究の沖縄班がこの企画に関わることで、本研究そのものが米軍基地による沖縄占拠を問題化する文化的実践の一翼を担ったのである。

一方、パレスチナ班は若手パレスチナ研究者の研究促進をめざし「関西パレスチナ研究会」の立ち上げに尽力した。

2. 研究成果の概要

研究代表者並びに研究分担者の本研究に関わる研究成果一覧は下記の通りである。また、上述した個々の研究活動の内容は本報告書の各章で詳述される。

1) 雑誌論文(計4件)

- ① 山崎孝史「政治地理をどう教えるか—選挙結果を活用して」歴史と地理 703、2017、1-9 頁
- ② 山崎孝史「選挙からみる複数の「沖縄」—民意はどこで示されたのか?」SYNODOS—シノドス、2016、<http://synodos.jp/politics/18689>
- ③ 山崎孝史「境界、領域、「領土の罫」—概念の理解のために」地理 61-6、2016、88-96 頁
- ④ 金城美幸「イスラエル建国以前の労働シオニズムにおける「民族共生論」の役割」アジア・アフリカ研究 55、2015、27-47 頁

2) 学会発表(計20件)

- ① Yamazaki, Takashi. Multi-scalar contextual effects on local elections: Okinawa in Northeast Asia. Debunking the Myth on Northeast Asia & Borders, February 5, 2017, Kyushu University Nishijin Plaza (Hukuoka, Japan)
- ② 山崎孝史「基地の街コザと暴動を語る論理」コザ暴動プロジェクト in 大阪「都市と暴動」シンポジウム(人文地理学会政治地理研究部会第20回研究会)、2016年12月18日、大阪市立大学都市研究プラザ船場アートカフェ(大阪府・大阪市)
- ③ 山崎孝史「リスケーリングの政治としての「大阪都構想」—新自由主義的都市改革と地方自治の「危機」」人文地理学会大会、2016年11月13日、京都大学吉田南キャンパス(京都府・京都市)
- ④ Yamazaki, Takashi. Why political geography matters in Okinawa studies? The Department of Geography graduate workshop, September 30, 2016, University of Hawaii at Manoa (Honolulu, USA)
- ⑤ Yamazaki, Takashi. Shifting borders and shifting identities: the geopolitics of identity in postwar Okinawa. The Department of Geography lecture series, September 29, 2016, University of Hawaii at Manoa (Honolulu, USA)
- ⑥ Mamadouh, Virginie and Yamazaki, Takashi. From inter-state to multiscalar Political Geographies. Plenary lecture at the 33rd International Geographical Congress in Beijing, August 25, 2016, China National Convention Center (Beijing, China)
- ⑦ Yamazaki, Takashi. How our city should be dissolved: Osaka Metropolis Plan as the politics of rescaling. The 33rd International Geographical Congress in Beijing, August 24, 2016, China National Convention Center (Beijing, China)
- ⑧ Yamazaki, Takashi. Cultural practices against militarization: the “resilience” of Okinawan culture. The 33rd International Geographical Congress in Beijing, August 22, 2016, China National Convention Center (Beijing, China)
- ⑨ Yamazaki, Takashi. From inter-state to multi-scalar political geographies: an East Asian

perspective. IGU Commission on Political Geography Pre-conference: International Forum on Frontiers of Political Geography, August 19, 2016, Sun Yat-Sen University (Guangzhou, China)

- ⑩ 崎浜靖「琉球列島における1944年作製陸海編合図の特性」沖縄地理学会、2016年07月30日、沖縄国際大学(沖縄県・宜野湾市)
- ⑪ Yamazaki, Takashi. Between a sea power and land powers: the revival of environmental determinism in Japan's security policy. The Joint Conference of IGU Commissions on "Geomorphology & Society", "Island Study" and "Political Geography" Earth, Society, Islands, and the Political in the Changing World, June 26, 2016, National Taiwan University (Taipei, Taiwan)
- ⑫ Yamazaki, Takashi. Japan's geopolitical vision and security policy towards the Pacific Ocean. The 2016 Association of American Geographers Annual Meeting, March 29, 2016, Hilton Union Squire (San Francisco, USA)
- ⑬ 山崎孝史「二つの「コザ騒動」—米軍統治下沖縄における住民蜂起の展開と意味」大阪市立大学人権問題研究センター第118回サロnde人権、2015年11月18日、大阪市立大学(大阪府・大阪市)
- ⑭ 山崎孝史「境界アイデンティティの再制度化—沖縄県八重山諸島における教科書論争」人文地理学会大会、2015年11月15日、大阪大学(大阪府・豊中市)
- ⑮ Yamazaki, Takashi. The spatial control of "vices" in the U.S. military outpost: value contradictions in a long-term stationing on foreign soil. IGU Moscow Regional Conference 2015, October 18, 2015, Lomonosov Moscow State University (Moscow, Russia)
- ⑯ 金城美幸「歴史が書きかえられるとき—二国家解決の幻想とイスラエル左派の瓦解」日本平和学会2015年度秋季大会、2015年07月18日、アステールプラザ(広島県・広島市)
- ⑰ 山崎孝史「日本の境界における帰属意識の政治」中山大学地理科学・計画学院政治地理学系列第二講、2015年05月29日、中山大学(中国・広州市)
- ⑱ 山崎孝史「戦後沖縄の境界・領域と政治行動」華南師範大学地理科学学院招待講演、2015年05月28日、華南師範大学(中国・広州市)
- ⑲ 山崎孝史「戦後沖縄の境界・領域と政治行動」中山大学地理科学・計画学院政治地理学系列第一講、2015年05月27日、中山大学(中国・広州市)
- ⑳ 金城美幸「イスラエル建国以前の労働シオニズムにおける民族共生論再考」日本中東学会第31回年次大会、2015年05月17日、同志社大学(京都府・京都市)

3) 図書(計5件)

- ① 佐藤正志、前田洋介、美谷薫、梶田真、神谷浩夫、山崎孝史、富樫幸一、畠山輝雄、丸山真央、中條暁仁『ローカルガバナンスと地域』ミネルヴァ書房、2017、278(82-103)頁
- ② 豊見山和行、安里進、今村遼平、真栄平房昭、金城善、崎浜靖『平成28年度沖縄県立博物館・美術館博物館企画展「琉球・沖縄の地図展～時空を超えて沖縄がみえる」』(有)アイドマ印刷、2017、80(68-71)頁

- ③ 松尾昌樹、岡野内正、吉川卓郎、溝渕正季、末近浩太、堀抜功二、岩崎えり奈、渡邊祥子、金城美幸、円城由美子、今井宏平、村上拓哉、坂梨祥、吉岡明子、江崎智絵『中東の新たな秩序』ミネルヴァ書房、2017、364(124-148)頁
- ④ 町田宗博、儀間淳一、親川裕子、赤嶺ゆかり、鳥山やよい、新垣安子、崎浜靖、吉浜忍、人城道子、崎原恒新『豊見城市史第4巻 移民編(本編)』(有)サン印刷、2016、624(345-383)頁
- ⑤ 竹中克行、遠城明雄、高橋誠、齊藤由香、林琢也、近藤章夫、土屋純、山崎孝史、神田孝治、大城直樹、山村亜希、上杉和央、谷謙二、梶田真、伊藤達也『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房、2015、206(123-142)頁

4) その他

ホームページ等

- ① 政治地理のページ(新)
<http://polgeog.jp>
- ② 人文地理学会政治地理研究部会
<http://polgeog.jp/studygroup/>
- ③ 金城美幸(立命館大学生存学研究センター掲載ページ)
<http://www.arsvi.com/w/km19.htm>
- ④ 政治地理のページ(旧)
<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/yamataka/home.htm>